

Business Report

株主通信

2016.1.1-2016.6.30

第34期

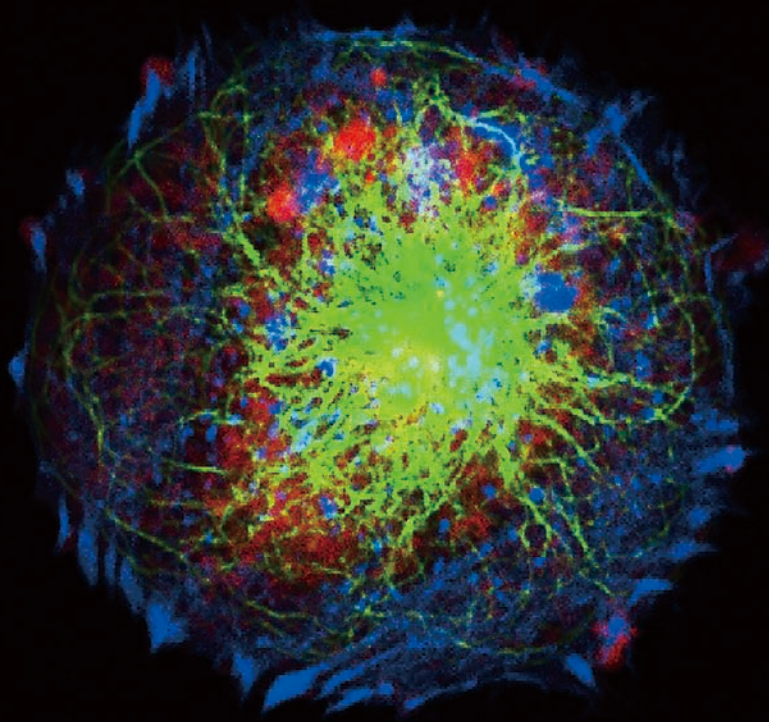
第2四半期

2016

特集

ゲノム編集技術

～その成り立ちと将来の可能性～



Inspiration for Life Science



人と科学のステキな未来へ

コスモ・バイオ株式会社

「外部環境の変化に抗する 事業基盤の構築」を私の使命と 認識し、取り組んでまいります。

Q 当第2四半期累計期間の業績は
いかがでしたか。

A 円高効果に加え、
利益率の高い受託サービス関連の売上増により、
増収および大幅増益となりました。

当第2四半期累計期間の業績は、売上高が前年同期比3.9%の増収、営業利益が同127.9%の大幅増益となりました。大幅な営業増益には、主に次の4つの要因があります。

第一が、円高転換という外部要因です。為替レートは、前年同期の120円/ドルから、当第2四半期累計期間平均115円/ドルと5円の円高となりました。研究用試薬の多くが輸入品であることから、円高は当社の仕入コスト低減効果を生み出しています。第二が、昨年実施した価格改定の効果です。ここ数年の大幅な円安進行下で仕入れ価格が次第に上昇し、当社の利益もじわじわと圧迫される状況が続いていましたが、昨年ようやく、お客様のご理解を得ながら価格改定を実施させていただきました。この効果もかなり出てきております。第三が、利益率の高い受託サービス関連の売上の伸長です。当社は同業他社との安易な価格競争に陥らないために、独自のオンリーワン商品、オンリーワンサービスの開発・開拓に注力してきました。受託サービス関連の業務拡大はこうした取り組みの成果の一つです。そして第四が、販管費の更なる節減努力の成果です。先行き不透明な市場や価格競争が激化する業界の動きのなかで、競争力を保ち続けるための事業基盤としてローコスト体質づくりは非常に重要な取り組みであると考えております。

Q 今後の経営の重要課題は
何ですか。

A “競争的優位性”をキーワードに、
新たな安定収益構造の創出に
取り組んでまいります。

現在、当社を取り巻く事業環境は、確かに為替の面では円高基調へと変わり、当社に有利な状況となってきてはおります。しかし、ライフサイエンスの基礎研究分野では、特に海外においてM&Aが非常に活発化しています。独自性の高い研究用試薬を提供するベンチャーを掘り起こし競争的に優位な契約を結んで事業拡大を進めてきた商品・サービスの取引が、突然のM&Aや日本法人の立上げによって消失し、加えて“昨日の友は今日の敵”といった関係が一変する事態が頻繁に起こる時代となってきました。この結果、競合環境は年を追って厳しさを増してきております。

そうしたなかで生き残りを果たし、持続的な成長・発展を図って

いくためには、商社機能の強化だけでなく、サプライヤーの動向に左右されることなく安定的な利益を確保するための、新たな収益構造の創出も重要な課題です。この認識のもと、当社は、“競争的優位性”をキーワードとした差別化、競争力強化を推し進めてまいります。これには3つの軸があります。

第一の軸は“提供する製品・サービス自体の優位性”です。これは、当社の開発機能を担う「プライマリーセル事業部」が中心となって独自の製品・サービスを開発・提供する取り組みであり、今後、さらに加速していく方針です。また、商社機能では引き続き、海外ベンチャーの探索による「寡占的契約品」の拡大にも注力してまいります。第二の軸は“時間的な優位性”です。研究用試薬はいわば“生もの”ですので、在庫を持つことは廃棄ロスを生むリスクを賭すこととなります。当社は、研究者のニーズを分析・予測し、一部の商品については在庫を充実させて研究者の「すぐにほしい」に応える体制づくりに注力しています。第三の軸は“情報力による優位性”です。研究者が求める商品情報や学術情報のタイムリーな提供は、創業以来ずっとこだわって続けてきたことです。残念ながら、情報力の高さが受注につながりにくい時代になってきましたが、「研究者のベストパートナー」であり続けるという視点に立って、これからも価値ある情報提供を継続してまいります。

Q 今後の経営の方向性を
お聞かせください。

A 研究者に寄り添い“臨場感”ある
営業活動を通して、強い事業基盤に
つなげてまいります。

中期経営計画の最終年度である当期(2016年度)は、「顧客満足度のさらなる追求」というテーマに重点的に取り組んでおります。これは、前述の“競争的優位性”の追求と連動した取り組みです。当社は、エンドユーザーである「研究者」に対するアプローチを“競争的優位性”という面から強化していくことで、“満足度”をさらに高めていきたいと考えております。また、お客様の“満足度”を実際の“注文”につなげていくために、営業部門の組織的な改革を進めることで、営業の現場に新しい風を送り込み、社員一人ひとりが研究者に寄り添い、いわば“臨場感”を持った営業活動の実践を目指しております。

外部環境の変化に抗する、安定性と強固さを備えた事業基盤を構築していくことが、私に課せられた使命であると考えております。来年度より始まる新たな中期経営計画に、こうした長い目線での成長戦略を盛り込み、次のステージを築いてまいります。

株主の皆様には、引き続きご支援のほどお願い申し上げます。

代表取締役社長
櫻井 治久



特集：ゲノム編集技術 ～その成り立ちと将来の可能性～

近年、画期的なゲノム編集技術が発見されたことで、基礎研究の現場では、遺伝子機能の解明や疾患モデル細胞の開発など今まで以上に研究のスピードがあがってきています。

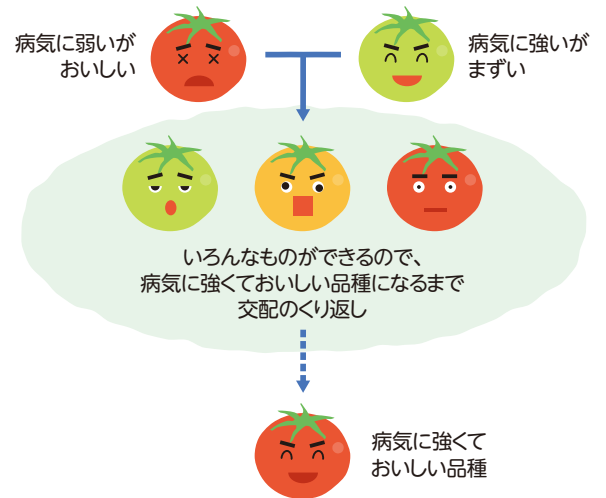


ゲノム編集って何？ 新しい技術なの？

ゲノムとは、遺伝子(gene)と染色体(chromosome)から合成された言葉で、DNAから成るすべての遺伝情報のことです。この言葉もなかった太古の昔から、私たち人類は「交配」という品種改良を行ってきました。

品種改良とは、より優れた品種を作り出すために、動物や植物の品種を掛け合わせることで、牛や豚、羊などの家畜化は8000年以上、農作物は4000年以上の歴史があります。こうして長い時間をかけて、乳をよく出す牛やおいしい肉がたくさんとれる牛や豚、温かく丈夫な糸がたくさんとれる羊など、家畜の品種改良が行われてきました。同様に、農作物の品種改良でも、病気に強い品種、収量の多い品種、早く育つ品種、おいしい品種など様々な品種を掛け合わせることで、優れた品種が生み出されてきました。こうした昔ながらの方法は、自然環境下で時間と運に任せて行う、気の遠くなるような作業でした。しかし、2005年頃に「ゲノム編集技術」が発見され、品種改良に新たな方法が加わりました。

◆ 農作物の交配による伝統的な品種改良の例 (農作物・トマトの場合)

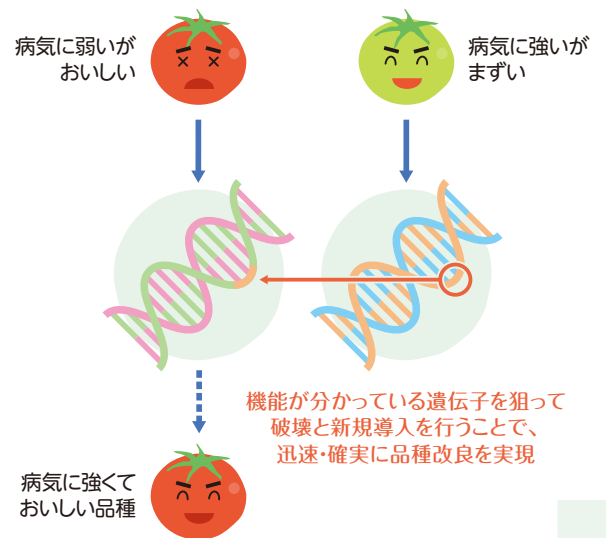


ゲノム編集技術のブレイクスルーのきっかけは？

発見当時の「ゲノム編集技術」は、膨大なコストを要することから、普及に向けたブレイクスルーを起こすには至りませんでした。革新をもたらした飛躍の引き金を引いたのは、2013年にマサチューセッツ工科大学のFeng Zhang博士により報告された「CRISPR/Cas9(クリスパー/キャスナイン)」と呼ばれるシステムを用いたゲノム編集技術でした。最も大きな特徴は、従来の10分の1以下のコストで、生物のゲノム配列の狙った箇所の遺伝子を破壊もしくは新たな遺伝子を導入することができる、という点です。この特徴によりこの技術は、現在のゲノム編集の主流となりつつあります。

ゲノム編集を行うためには、各遺伝子の機能を解析する必要があります。2003年に完了した「ヒトゲノム計画」以降、遺伝子の役割や病気との関係の解明、そして病気の予防や診断、治療方法の開発が積極的に行われています。そのなかでも特にヒトの遺伝子病やがんに関連する遺伝子の発見が相次いで報告されています。今後、ゲノム編集技術を用いた病気の治療も行われようとしています。

◆ ゲノム編集技術による品種改良の例 (農作物・トマトの場合)



一口メモ

ヒトゲノム計画

今から26年前の1990年に米国のエネルギー省と厚生省によって30億ドルの予算が組まれて発足した、ヒトゲノムの全塩基配列を解読するプロジェクト。各国のゲノムセンターや大学などによる国際協力体制の下、解読作業は2003年に完了。

これが、現在の本格的なゲノム研究時代幕開けの端緒となったと言えます。



ゲノム編集技術にはいろんな可能性があるってホント？

近年、「遺伝子治療」という言葉を耳にすることも多くなってきたのではないのでしょうか。医療の世界で「遺伝子治療」が急速に身近になってきた背景には、前述の「CRISPR/Cas9」システムを用いたゲノム編集技術の貢献があります。

ゲノム編集技術は、倫理面や制度面などを含めて解決しなければならない課題はあるものの、現在、難病、不治の病と言われている病気に対しても画期的な治療方法を生み出してくれる大きな可能性を秘めており、世界中で研究が進んでいます。また、ゲノム編集技術は医療への応用だけでなく、食糧問題、エネルギー問題など、近い将来、世界中で大きな問題となるこれらの問題の解決につながる技術です。



コスモ・バイオは、多種多様なゲノム編集ツールをご用意し、基礎研究を強力にサポート。

ゲノム編集技術は新しい技術で、すべての研究者が簡単に目的通りの研究ができる技術ではありません。当社では、ゲノム編集実験を行う研究者が必要とするすべての情報が掲載された「ゲノム編集ハンドブック」を作成し、ホームページでも動画を用いてゲノム編集をご紹介します。また、各大学や各企業にてセミナーを実施し、研究者の必要とする情報の提供を積極的に行っています。

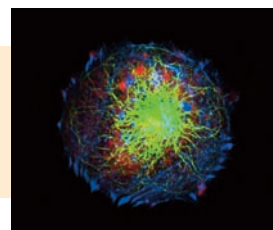


コスモ・バイオ ゲノム編集

検索

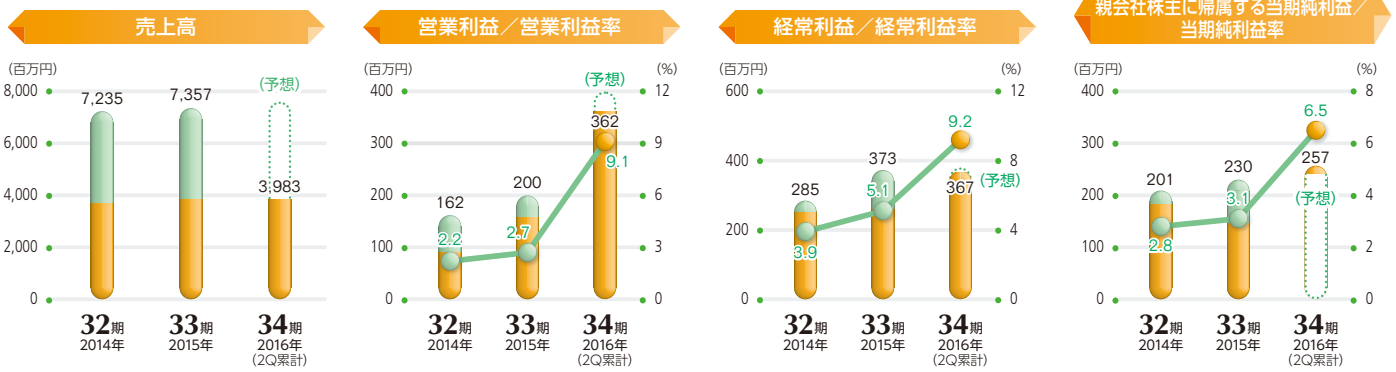
表紙について

神経芽細胞腫を蛍光顕微鏡で観察した写真です。様々な抗体と複数の蛍光色素を併用することで細胞内のタンパク質を染め分けることができます。



業績・財務のご報告（連結）

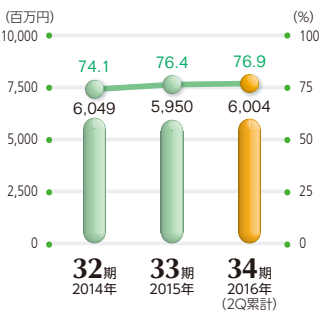
● 通期 ● 2Q累計



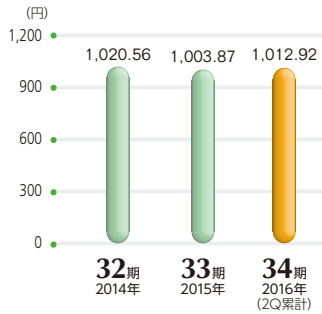
営業の概況

ライフサイエンスの基礎研究分野市場の動向は、依然として大学・公的研究機関において、慎重な予算執行の傾向が続いていると捉えております。また、同業他社との競争は販売価格面で厳しい状況が続いております。このような状況下、当社グループは、ライフサイエンス領域の研究開発に資する多様な自社製品・商品・サービスの提供と、在庫の充実による迅速出荷に取り組んだ結果、当上期の売上高は前年同期比3.9%増となりました。一方、利益面では、販管費の節減に努め、営業利益は同127.9%増、経常利益は同41.9%増となりました。

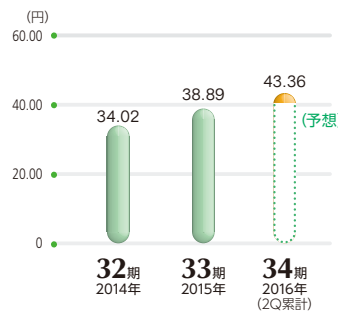
自己資本 / 自己資本比率



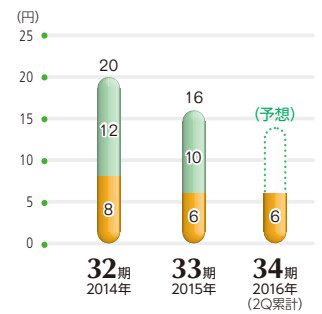
1株当たり純資産



1株当たり当期純利益



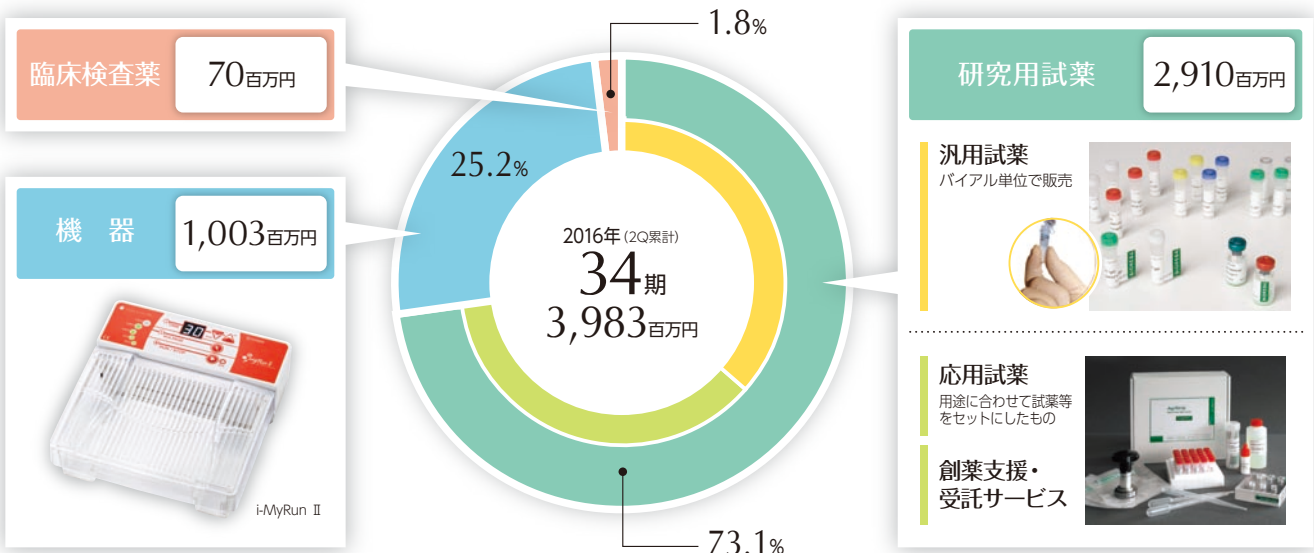
1株当たり配当金



株主還元

当社では、株主の皆様への利益還元を経営の重要事項の一つと認識しております。当社の株式を長期的かつ安定的に保有していただくため、安定配当を行っていただくことを念頭に置き、配当性向を重視しつつ、今後の収益状況の見通しなどを総合的に勘案して決定すべきものと考えています。当期の中間配当は、1株当たり6円とさせていただきます。期末配当は8円（年間配当14円）を予想しています。

商品分類別連結売上高



研究用試薬

2,910百万円

汎用試薬

バイアル単位で販売



応用試薬

用途に合わせて試薬等をセットにしたもの



創薬支援・受託サービス

機器

1,003百万円



臨床検査薬

70百万円

トピックス

Topics

1 「涙液ムチン測定キット」発売開始

2016年3月より、簡便な操作で高感度にムチンを測定でき、且つ実験時間を短縮した「涙液ムチン測定キット」を開発し、販売を開始しました。本製品は、すでに製薬会社をはじめ、食品会社、基礎研究の場で広く活用されています。

ムチンとは...

糖タンパク質の一種で、涙、唾液などの粘液中に多く含まれており、角膜・鼻・目の粘膜をウイルスや細菌から保護するなど、バリア機能として働くことが知られています。



涙液ムチン測定キット

Topics

2 エクソソーム検出用抗体の特許権譲受契約を締結

2016年7月、塩野義製薬株式会社の所有するエクソソーム検出用抗体の特許権並びに関連する抗体製品の製造・販売権に関する特許権譲受契約を締結いたしました。この抗体はエクソソーム表面に発現しているタンパク質に特異的に結合することで、簡便に高純度のエクソソームを単離することができ、エクソソーム研究には不可欠とされている抗体です。

当社では、この抗体を国内の学術研究向けばかりではなく、製薬会社、臨床検査薬開発会社などの民間企業をはじめ、世界に向けて販売いたします。

エクソソームとは...

細胞から分泌された脂質二重膜で形成される直径40nm~150nm程度の小胞。ヒトをはじめとする多くの生物では唾液、血液、尿、羊水、母乳等の体液中に存在しています。近年、エクソソームには様々なタンパク質やRNAが含まれていることが報告されており、新たなバイオマーカーとして注目を集めています。

株主様アンケートのお願い

当社では、株主の皆様からいただいたご意見・ご要望を、今後の経営およびIR活動に活かしたいと考えております。つきましては、株主様アンケートを実施させていただきますので、お手数ではございますが、同封のはがきに所定の内容をご記入いただき、ご投函くださいますようお願い申し上げます。

ご回答いただきました集計結果の一部につきましては、当社ウェブに掲載するとともに、次回の株主通信にてご報告させていただく予定です。なお、お寄せいただきました情報は、厳重に管理し、正当な目的以外には利用いたしません。

アンケート
メット

2016年12月31日

会社情報 / 株式情報 (2016年6月30日現在)

◆ 会社概要

商号	コスモ・バイオ株式会社
設立	1983年8月25日
所在地	〒135-0016 東京都江東区東陽二丁目2番20号 東陽駅前ビル
資本金	918百万円
事業内容	ライフサイエンスに関する研究用試薬、機器、 臨床検査薬の仕入れ（一部自社製造）及び国内・海外販売
従業員数	連結：121名 個別：94名

◆ 役員

取締役会長	笠松 敏明
代表取締役社長	櫻井 治久
取締役	世良 伸也
取締役	牧 与志幸
取締役	島村 和也*
常勤監査役	中野 重則*
監査役	佐々木 治雄*
監査役	深見 克俊*

※は社外役員

◆ 株式の状況

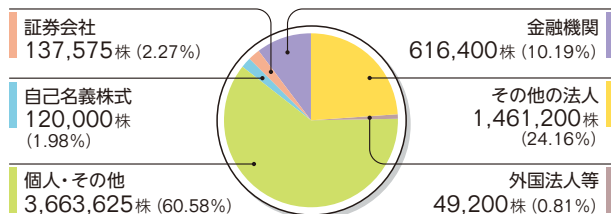
発行可能株式総数	18,361,600株
発行済株式の総数 (自己株式120,000株を含む)	6,048,000株
株主数	5,646名

◆ 大株主の状況

株主名	持株数(株)	議決権比率(%)
東京中小企業投資育成株式会社	1,152,000	19.43
みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 コスモ石油口 再信託受託者 資産管理サービス信託銀行株式会社	576,000	9.72
コスモ・バイオ従業員持株会	165,000	2.78
田中 知	126,800	2.14
原田 正憲	104,500	1.76
株式会社ヤクルト本社	100,400	1.69
新日本空調株式会社	89,600	1.51
鈴木 由美子	82,300	1.39
高木 勇次	80,000	1.35
船戸 俊明	75,400	1.27

(注) 議決権比率は、自己株式120,000株を控除して計算しております。

◆ 所有者別株式分布状況



株主メモ

事業年度	1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎年3月開催
基準日	12月31日
剰余金の配当の基準日	6月30日、12月31日
単元株式数	100株

株主名簿管理人
同お問い合わせ先

公告方法

上場証券取引所
証券コード

三菱UFJ信託銀行株式会社
同証券代行部 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
Tel. 0120-232-711

電子公告 <http://www.cosmobio.co.jp/>

(ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合は、東京都において発行する日本経済新聞に掲載して行います。)

東京証券取引所 JASDAQ スタンダード
3386



株式に関するお問い合わせ先 ▶ 住所変更等、株式に関する手続き・お問い合わせは、お取引の証券会社へお願いいたします。